

学び合いながら生きる力を高める生徒の育成

～新聞の有効な活用を通して、自分と社会を結びつけるこども～

聖籠町立聖籠中学校



1 NIE 実践のねらい

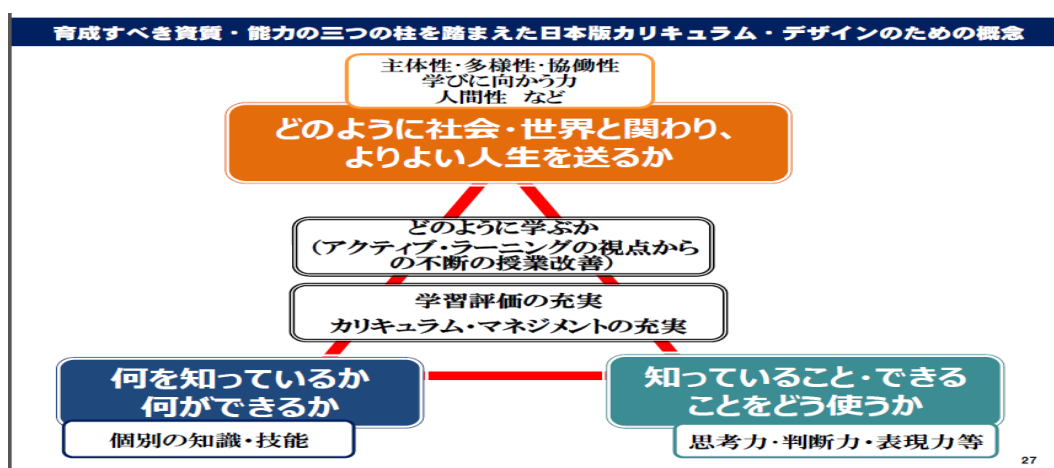
(1) テーマ設定の理由は

①これまでの経緯から

平成 28 年度は、有効な「課題」の在り方や、授業の中での「ねらい・課題・まとめ・振り返りの整合性を検証してきた。実践を進める中で、学び合いの場面を取り入れることが生徒の思考力・判断力・表現力を高めることに効果的であった。今年度も、学び合いにより「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、確かな学力を身につけるために実践を進めていく。そこで、NIE 活動を通して、授業の学習内容と自分の生活を関連付けることで学習への意欲を喚起したり、新聞記事を使って読む・書く活動を行うことで基礎的・基本的な知識・技能の習得をしたりすることを目指す。さらに新聞を教育活動の中に取り入れることで、世の中の出来事に関心を持ち自己の生き方を考え、それらを言葉や行動に表すことができる表現力を伸ばしたい。また、実践発表後も生徒の学力向上と自己の生き方を考えるために、継続可能な NIE 活動を教育活動に取り入れていく。

②NIE 活動を推進する意義から

これからの時代に求められている資質・能力は 3 つあり、それを育成するのに新聞の活用は有効であるとされている。3 つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念が次である。



文部科学省教育課程企画特別部会 論点補足資料 平成 27 年 8 月 27 日 より
特に、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」については、私たちと社会・世界をつなぐ重要な窓である新聞の果たす役割は大きい。新聞から情報を収集して整理・分析したり、それをまとめて表現したり

する活動は、今求められる資質・能力を養う上からも重要である。

また、過去の実践校では次のような成果がみられた。

- ・ 知らなかった情報を得て自分の視野を広げ思考が深まった。
- ・ 必要な情報を取捨選択できるようになった。
- ・ 記事を手本に伝えたいことをわかりやすく伝えられるようになった。
- ・ 身近な話題や生活に即した話題・タイムリーな内容の記事を教材として提示することで、問題意識を醸成し学習課題につなげることができた。

③生徒の実態と目指す生徒像

昨年度の学期末に行った生徒アンケートで「週 1 度は新聞を読んだり読書をしたりしている」と回答する生徒は、1 学期 53%，2 学期 56%であった。

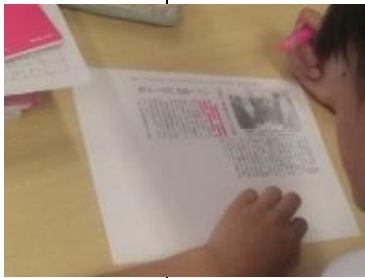
校内 NIE に関するアンケートで「朝活動の 10 分間で新聞記事を読んで感想まで書くことができる」と回答する生徒は、活動を始めた当初は 57%であったが 2 学期末は 79%と向上した。

また、平成 28 年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙で「新聞を読みますか(月に 1 回以上)」と回答する生徒は全国より 1.5%低く 34.5%，「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」と回答する生徒は全国より 1.6%高く 67.4%であった。2 年目の今年度も NIE 活動を通して、学習への意欲を喚起したり、新聞記事を使って読む・書く活動を行うことで基礎的・基本的な知識・技能の習得をしたりすることを目指していきたい。そうすることで世の中の出来事に関心を持ち自己の生き方を考え、それらを言葉や行動に表すことができる表現力を伸ばしていきたい。

2 本年度の実践の概要

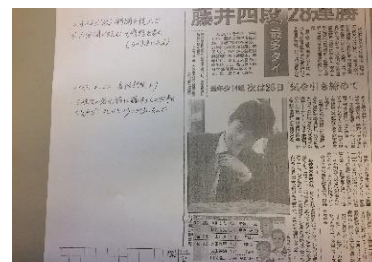
(1) NIE に関連する職員研修や研究授業実践

時期	実施内容
4 月 3 日	○NIE 実践計画提案
4 月～	○朝活動で新聞記事の活用 ○朝学活で新聞記事の発表 ○新聞コーナーの設置 ○広報委員会で今月の新聞記事を学年ごとに掲示，週 1 回朝活動の新聞記事，今週の新聞記事を昼の放送で発表する。 ○授業実践
5 月	○社会科部で指導案検討
6 月 21 日	○NIE 研修① 公開授業（1 年社会 縄文時代），協議会 指導者 下越教育事務所指導主事 若林靖人 様 聖籠町内の遺跡で発掘された出土品展（2017 年 2 月 28 日新潟日報より）という新聞記事を導入で読んだ。また，講師の方から聖籠町出土の縄文土器について説明してもらい，「土器を作ったのはなぜか，土器があることで良いことは何か」を課題として授業を展開した

		
7 月	○生徒へのアンケート（実態把握）	
8 月～10 月	○新聞記事感想文コンクールに応募 ○研究推進部，1 学年部，社会科部で総合的な学習の時間，社会科指導案検討 ○1 年総合的な学習の時間，2 年社会プレ授業	
10 月 12 日	○NIE 研修② NIE2 年次発表会 ネットワーク部会 公開授業（1 年総合的な学習の時間 防災教育洪水災害編 2 年社会 近畿地方），分科会，全体会 指導者 下越教育事務所指導主事 若林靖人 様 指導者 聖籠町教育委員会 参事 新保英博 様	
1 月～3 月	○2 年次の実践のまとめ 日本新聞協会に実践例報告，NIE 推進協議会に実践報告書	

(2) 日常活動における新聞の活用

- ①朝活動で新聞記事を読み，感想を書く。
- ②朝学活で日直が自分の興味ある新聞記事の内容と感想を発表する。
学級担任は発表の態度や話し方，新聞の読み方などを適宜指導する。
- ③新聞に親しむ環境作りとして，
ア HB（ホームページ）・社会科教室に新聞を置く。



- イ 新聞コーナーを設置する。毎日新聞の1面を掲示する。
掲示は広報委員会が行う。



- ウ 広報委員会で今月の新聞記事を学年ごとに掲示，週1回朝活動の新聞記事，今週の新聞記事を昼の放送で発表する。



④夏季休業中の社会科の課題として1・2・3年生に新聞感想文を課し、コンクールに応募する。

3 実践例

実践 1 1年1組 総合的な学習の時間 学習指導案

平成29年10月12日(木)5限

授業者 教諭 林 健一

1 単元名 防災教育 洪水災害編

2 単元のねらい

洪水に関する基本的な知識や災害発生時の対応方法を学び、その実践を促すとともに、想定にとらわれることなく、自ら判断して安全確保を図ることができる生き抜く力を養う。

3 単元観(省略)

4 本時(全5時間の4時間目)

(1) 本時の目標

新聞記事から、身近な地域で災害が起こりうることを知り、自分たちができることを考え、地域防災の担い手であることの意識を高める。

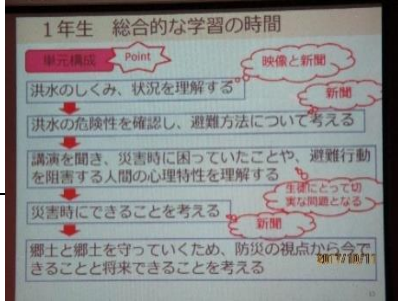
(2) 展開

段階	生徒の学習内容・学習活動	教師の指導・支援・働きかけ	○評価・配慮点
導入 (10分)	- 流れを確認する。 - 新聞記事を読みながら、線を引く。 - 発表を聞く。 	- 流れを確認する。 - 羽越水害から50年目という新聞記事(2017年6月27日新潟日報ふむふむより)を読み、齋藤さんが感じたことの部分に線を引くよう指示し、発表させる。 - 新聞記事の文末に「災害はこれからも起こるかもしれません。自分たちにできるこ	・〔重点2〕聖中UDL5 ・〔重点1-①〕基礎・基本 ○情報活用力 ・〔重点1-②〕課題解決

展 開 1 (25 分)		とを考えたいと思います。」とあるが、まず何をしなければならないか、発表させる。	
	課題 命を守ることも含めて、洪水災害時に自分たち中学生ができることは何だろうか。(避難所では、地域住民として)		
	- 自分の考えを付箋に書く。 (班) 手順に従ってまとめて発表する。 班長から時計回りに書いたことを発表する。→出てきたものを班でまとめていく。そのようにした理由等も入れる。→発表する。 - 発表を聞く。	- 前時までの学習内容も思い出して付箋に考えを書くよう指示する。理由も書けたら書くようにする。 - 班でまとめるよう指示する。 - 手順を示し、考えの理由を入れながらまとめさせ、発表させる。	〔重点 2〕 聖中 UDL5 〔重点 1ー②〕 課題解決 〔重点 1ー③〕 思考力・判断力・表現力 〔重点 1ー④〕 言語活動理由を入れて考えるように支援する。 ○コミュニケーション力 
ま と め (8 分)	災害時にどんな行動ができ、そしてその行動が人々の役に立つ行動であることを知る。	それぞれの場面でできることを確認し、地域防災の担い手であることに気づかせる。	〔重点 2〕 聖中 UDL5
	まとめ 最優先は命を守ることである。 避難所では・・・周囲の様子を見て手助けをすることができる。 (清掃、小さい子・お年寄りの話し相手、食品を配るなど) 地域住民として・・・周りの人に避難するように声をかけることができる。		
	新聞記事を読む。	広島の大規模災害時に小中学生 2 人が避難所に壁新聞をつくったという具体例が載っている新聞記事(2014 年 8 月 25 日新潟日報より)を読ませる。	〔重点 1ー③〕 視覚 - 時間によっては省略することもある。
振 り 返 り	授業の振り返りを用紙に書	振り返りを用紙に書く	〔重点 2〕 聖中 UDL5

(7分)	く。 ・発表する。 ・中学生でもできることがあるということを認識し、いざという時にそのような行動を取ろうという気持ちをもつことができる。	よう指示し、発表させる。 ・地域防災の担い手であることを認識させる。	○表現力 
------	--	---	---

(3) 本時の評価

コミュニケーション力	表現力	情報活用力
グループ活動を通して、自分たちができることについて理由を入れて考えることができる。	・課題に対して自分の考えを書くことができる。 ・振り返りで学習内容について自分の感想を書いたり、中学生でもできることがあることについて書いたりすることができる。	新聞記事により、身近な地域で災害が起こりうることを知り、必要な情報を得ることができる。 

(4) 成果○と課題△（協議会をして）

○身近な地域の新聞記事を導入で取り入れ、課題につなげていた。

○NIEの指定もあり、新聞記事を活用した授業を実践し、記事に線を引くことで内容を読み取ることができた。

○前時に日本赤十字社の方を講師として、災害時の活動について学習した内容が本時に生かされていた。

△まとめて紹介した新聞記事を、課題を解決するためのヒントとして、展開の時に紹介するとよかった。



実践2 2年生社会科 授業者 教諭 山崎 真

単元「日本の諸地域 近畿地方～歴史の中で形作られてきた人々の暮らし」において、「新聞記事から、京都に多くの観光客が訪れる魅力はどこにあるか」を課題として授業を展開した。（展開）

段階	生徒の学習内容・学習活動	教師の指導・支援・働きかけ	○評価・配慮点
導入 (7分)	・本日の流れを聞く。 ・新聞記事の見出しを見	・机上の持ち物について指示する。（筆記用具） ・本時の流れを確認する。 ・世界の人気観光都市 1	〔重点2〕聖中 UDL5-2 ・本日の流れを掲示する。 ・新聞を黒板に貼る。

展開 1 (27 分)	る。 ・新聞記事①を読む。 ・内容を発表する。 	位に選ばれた京都に関する新聞記事（2015 年 9 月 9 日新潟日報より）の見出しを見るように指示する。 ・新聞記事①の部分を読む。 ・生徒からの答え（予想） 米大手旅行雑誌で世界の人気観光都市 1 位，観光客数 5564 万人，外国人宿泊客数 183 万人で 1 位など ・『日本にも世界にもたくさんの観光地があるのに，どうしてたくさんの観光客が京都を訪れるのかな？』 『京都の魅力は何だと思いますか。』	・新聞記事を配布する。  
	課題 多くの観光客が京都を訪れる大きな魅力はどこにあるだろうか。		
	・新聞記事②から魅力の部分に線を引く。（個人）	・新聞記事②から魅力の部分に線を引くように指示する。 『魅力の部分に引きましょう。』 以下省略	〔重点 1－①〕 ○新聞記事から魅力を探することができる。 （資料活用の技能・表現）

4 成果

生徒の学期末アンケート項目「週に一度は新聞を読んだり読書をしたりしている」と回答する生徒が 60%以上を目標としたが，1 学期末は 59%（昨年 2 学期比＋3%），2 学期末は 66%と 2 年間かけて目標を達成することができた。

生徒の学期末アンケート項目「生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」と回答する生徒が 70%以上を目標とし，1 学期末は 93%，2 学期末 93%であった。

全国学力学習状況調査生徒質問「新聞を読んでいる（月 1 回以上）」では

全国平均を目標とし、全国は 30.4%，聖籠中は 33.8%と全国的にも新聞離れが進んでいる中で全国平均を 3.4%上回った。しかし「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」と回答する生徒は全国は 59.2%より 10.8%低く聖籠中は 48.8%と昨年を下回った。

下記のグラフは、全校生徒対象の校内 NIE に関するアンケートの結果である。

①～④の項目は昨年から継続である。昨年度の 12 月と比較すると、4 項目とも 4 月、7 月と伸びが見られる。③「朝の 10 分間の中で感想を 5 行以上書いた」という項目が、昨年 12 月比+24%と伸びが大きい。④「地域や社会でおこっている出来事に関心がある」という項目も、昨年 12 月比+10%伸び、全校の 4 分の 3 の生徒が自分と社会の結びつきを感じている。⑤、⑥の 2 項目は 2・3 年生対象に昨年度と比較したものであり、「新聞記事を早く読めるようになった」、「感想を多く書けるようになった」と捉える生徒が 80%を超えた。

昨年度から日常活動として、ホームページに新聞を置くなど広報委員会で環境面を整えたこと、新聞記事を取り入れた授業を実践したことなどが結果に結びついたと考える。

例えば、3 年生の社会の学習内容と一致する衆議院の総選挙が 10 月にあり、タイムリーな記事であったので授業に取り入れたことが有効であった。ただ、全ての授業で新聞記事を活用することは難しいことから、活用場面について、授業実践を積み重ねていくことが必要である。

